

より良い社会の形成に向けた課題と解決策について考える力を培うための指導の工夫

～付せん紙を利用したワークシートを活用し、より良い社会に向けたメッセージを書く活動を通して～

社会科班 佐藤 真樹 (小学校教諭)

児童の実態



- 学習内容を自分に関係あることとしてとらえていない
- 学習内容を関連付けてとらえられない
- 学習内容を根拠として考えを述べることに慣れていない

はばたく群馬の指導プラン

「よりよい国民生活に向けた課題と解決策を考えることができる」(小学校5年)



【中心となる手立て】

付せん紙を利用したワークシートを活用し、よりよい社会に向けたメッセージを書いてみよう!

I 付せん紙を利用したワークシートの活用

習得 ☆課題(青)、解決策(赤)、考えたこと(緑)を付せん紙書きノートに貼る。

比較・関連・総合 KJ法的手法で付せん紙を類型化し、解決策とよりよい社会の姿を関連付ける。

再構成 緑付せん紙を関係のあるところに動かし、学習内容を自分に関係あることとして再構成する。

児童のノート

小麦で作っているケーキやパンも米でも作る。

米や野菜は国産品が99%。地産地消をできるだけ行うようにする。

日本の食料自給率が39%。自分でも野菜を作りたい。日本の食べ物がなくなったらと思うと不安。

食料生産が元気になる。地元の物と食べる習慣が大切。

外国の食べ物って大丈夫なのかな。

甘楽も元気になる。

道の駅で甘楽と野菜を買いたい。

ワークシート

課題だと考えること
食料自給率が低い
日本の食べ物がない。たさと思えば不安

☆この課題を解決するために考えられる方法を赤い付せん紙を使ってし合ってみよう☆

②話し合いの結果、考えたことを書いてみよう。
課題を解決するために、やった方がいいと思うこと
地産地消をできるだけ行うようにする。
それをやる、どんなよいことがあるでしょう。
食料生産が元気になる。地元の物と食べる習慣が大切。
それが作れたら安心だね。

③これまでの学習で考えたことを緑の付せん紙を使ってふりかえてみよう。
自分、やってみようと思ったこと
なるべく地元のものを食べてみたい。
群馬は環境がいいから良い食物ができる。
安心して思ったこと
外国の食べ物って大丈夫なのかな。
その他
いい匂い売れたら甘楽も元気になる。

☆緑色の付せん紙は、関係のありそうなところに動かしてみよう。

④自分にできることや、将来やってみようと思うことを書いてみよう。
自分でも野菜を作りたい。
道の駅で甘楽と野菜を買いたい。

II よりよい社会に向けてのメッセージを書く

児童のメッセージ文



僕日本の食料自給率が低いことが心配です。これまで日本の食料は食べ物が増えていって不安です。そこで解決策を考えました。それは地産地消を徹底して、地元で作ったものをたくさん食べることにしよう。すると、地元産の食べ物が増え、食料自給率も上がるからいいと思います。僕は、地元産の安全な食べ物を食べる習慣で話してみたいと思います。だから僕は、地元のものをたくさん食べるのが、今から習慣化しようと思います。

授業の成果

	①課題と解決策に整合性があるか。	②その解決策を行うとどんなよいことがあるか考えている。	③課題を解決するために自分にできることを考えている。	④解決策と自分にできることを関連付けて考えている。
人数(人)	31人(+0人)	28人(+15人)	31人(+13人)	21人(+13人)
割合(%)	100%(+0人)	90%(+48%)	100%(+42%)	68%(+39%)

○成果 ▲課題 ☆提言

○付せん紙の類型化とワークシート上での操作により、学習内容を視覚的に整理・再構成できたので、よりよい社会に向けた課題と解決策を考える力を培うことができた。

○緑付せん紙に「自分ならこうしたい」、「感心したこと」を書き、それらを蓄積、整理することによって、学習内容をより自分と関係があることとして捉え、「甘楽(群馬、日本)に生まれてよかった」、「地域の発展の役に立ちたい」といった、社会参画の意識を培うことにもつながった。

▲ワークシートに沿って自分の考えをまとめていくため、画一的な内容になりやすい。ワークシートの内容を吟味し、多様な考えを引き出せる工夫が必要と言える。